

第51回 全国知的障害福祉関係 職員研究大会（新潟大会）

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 KDX 浜松町ビル 6階

助成事業の概要

本事業は、本年度で51回の開催を迎えましたが、例年、本事業の企画・運営は、各地区会・地方会において持ち回りにて実施しています。本大会の参加対象は、主に全国に所在する知的障害関係の施設・事業所の支援員を主な参加者としており、例年3日間にわたり研修会を実施しています。

本大会では、各プログラムを通じて日常における支援の見直しやスキルアップを図るとともに、新たな実践に取り組むきっかけや、種別を超えた仲間づくりなども目的としています。

今年度は、新潟県新潟市の新潟コンベンションセンター（通称：朱鷺メッセ）を主会場とし、大会テーマの「真の共生社会の実現と知的障害福祉の未来に向けて～変わりゆく制度と変わらぬ想い、私たちの専門的役割とは～」のもと、平成25年9月4日（水）～6日（金）の3日間にわたり全国より1,913名の参加を得ることが出来ました。

事業の成果

大会1日目の全体会では、開会式、永年（20年）勤続表彰（今年度の対象者は516名）授章式に続き、「真の共生社会とは・・・」をテーマに元NHKアナウンサーの町永俊雄氏、現代プロダクション代表で映画監督の山田火砂子氏、NPO法人このゆびと一まれ理事長の惣万佳代子の3者による鼎談が行われ、それぞれの立場からイメージする共生社会について話し合われました。

次に厚生労働省の辺見聡障害福祉課長による行政説明が行われ、障害福祉施策の動向が話されました。

大会1日目の終了後には、参加者同士の交流を目的に情報交換会が行われました。例年、情報交換会は設定定員を上回る申込みがあり、今年度においても、会場内は参加者の熱気で溢れ、新潟の銘酒なども振る舞われるなど、大変な盛況でした。

大会2日目は、午前は事業種別ごとに6部会に分かれ、事前に公募により選ばれた実践発表などが行われました。

6部会の名称は次のとおり。

- ①児童発達支援部会
- ②障害者支援施設部会
- ③日中活動支援部会
- ④生産活動・就労支援部会
- ⑤地域支援部会
- ⑥相談支援部会

また、午後からは、7つの分科会を設け、テーマごとにその第一線で活躍されている講師による講演やシンポジウムが行われた。7分科会のテーマは次のとおりです。

- ①社会福祉法人の未来を考える
- ②教育と福祉の連携をどうすすめるか
- ③福祉職に求められる価値と技術の追求
- ④障害者の新たな暮らしと地域づくり
- ⑤障害者総合支援法のここからその先へ
- ⑥異業種の視点から学ぶ
- ⑦真の共生社会とは！その実現に向けて

また、今年度の大会では初めての試みとして、

大会 2 日目に部会・分科会とは別に、新潟県内の先進事業所を貸切バスにて回る「先進事業所見学ツアー」を参加者限定 35 名にて行われました。

大会 3 日目の最終日には、新潟県出身で北朝鮮による拉致被害者である蓮池薫氏による特別講演Ⅰ「愛と絆～人生で奪われてはならないもの～」と、株式会社東レ経営研究所特別顧問の佐々木常夫氏による特別講演Ⅱ「楽しく働くこと～個人も組織も成長するワークライフバランス～」が話されました。

その後は、閉会式において翌年の青森大会に向けた PR などがなされ、全 3 日間の大会は無事に終了しました。

目的と希望を持って障害福祉の仕事に携われるよう、また、その大きなきっかけとなるような意義のある大会を目指し、来年度も企画・運営を行っていきたいと考えております。

■ 成果の広報、公表

本大会の報告は、本会の機関紙「愛護ニュース」（毎月 1 日発行）において、大会 3 日間を通じた終了報告を掲載し、関係機関および会員施設・事業所の約 6,200 ヶ所に配布しました。

また、本会の月刊誌『さぽーと』2013 年 11 月号においても、大会特集ページを設け、3 日間にわたるプログラムの詳細を掲載しました。

■ 今後の展開

本大会は、平成 26 年度は第 52 回大会として青森県青森市での大会が予定されています。

現在、青森県内においては、実行委員会が組織され、大会のメインテーマや 3 日間のプログラム構成、分科会におけるテーマ設定や講師の選定などが検討されています。

本大会の 52 回までの歴史においては、制度は大きな変化を遂げていますが、どのように制度の変革がなされても、日々、現場において利用者との向き合い、支援を行い、実践を重ねる施設・事業所の職員の皆さんが、自らの仕事に誇りを持ち、